

# 令和5年度 第1回学校運営協議会 及び 第1回コンプライアンス委員会

記録：長谷川

1 日 時 令和5年5月18日（木）10:00～12:00

2 会 場 本校校長室

## 3 参加者

### (1) 学校運営協議会委員

上川 雄司 様 協同組合静岡流通センター 専務理事  
木原 重之 様 麻機学区自治会連合会 防災委員長  
堀越 英宏 様 静岡市障害者協会 事務局長  
野村 和代 様 常葉大学教育学部初等教育課程 講師  
青木 皓平 様 弁護士法人ましろ総合法律事務所 代表弁護士  
(太田 昌樹 様 P T A会長 欠席)

### (2) 本校職員

原田満紀校長、植田記久乃副校長、坂部亨教頭、滝静子事務長  
大橋美智代小学部主事、郡哲也中学部主事、杉本友紀乃高等部主事  
長谷川実穂教務主任

## 4 会議次第

- (1)開会
- (2)校内案内
- (3)協議
- (4)第1回コンプライアンス委員会
- (5)閉会

## 5 会議内容

### (1)開会

ア 校長挨拶【原田校長】

以前から、本校のことをよく知ってくださっている皆様にお集まりいただき、心強く思います。

コロナも5類の扱いになり、マスクについては、分校は高等学校並み、本校は感染の拡大状況を見つつ対応していきます。持病のある子や距離感がうまくつかめない子もいます。熱中症も心配ですので、気温上昇の様子も見ていきます。現状では、教師はマスクを外してもいい場面に外すように呼び掛けても、なかなか外せないようです。

さて、本校は今年開校50年目、来年50歳を迎えます。来年は記念式典を行います。南の丘分校は来年20年です。そういったこともあり、準備委員会をつくりました。保護者にも、地域の方々にも御協力をお願いしたところです。

昨年度は、1週間かけて静北祭を行いました。これからは、地域の皆様にも祝っていた

だけのように、どのように参加していただけるか、検討を重ねていきたいと思っています。今、本校には「新しい風」が吹いているように思います。老朽化に対応した施設の建替えは、令和5年度から設計して完成は令和12年度です。設計の中で今後の詳しいスケジュールが明らかになっていきます。しかしながら、建替えの期間はグラウンドが使えないので体育活動をどうしていくか、畑も使えない可能性があるため、場合によっては地域の方に御協力をできないかなど、考えなくてはならないこともあります。今、教職員にも保護者にも説明をしているところです。

その他にも、静岡視覚特支に新校が開設されます。令和8年度開校です。学区が分かれ、高等部の半分の生徒がそちらに移る予定です。また本校は現在プール設備の老朽化で使えない状態なので、今年度は、小学部は中央特支のプールを週1回お借りすることになりました。中学部はセイシンスポーツクラブに4回出かけることになりました。

未来に向けて、改善の希望はたくさん見えてきましたが、その分現状にはまだまだ課題もあると言えます。皆様のお力添えをよろしく願いいたします。

委任状をお渡しします。

イ 自己紹介

(委員→本校職員)

(2)校内案内

- ・小学部
- ・中学部
- ・高等部

(3)協議

ア 本日の協議の趣旨説明【植田副校長】

まずは、学校運営協議会の説明をさせていただきまして、会長の選任をさせていただきます。その後、学校経営計画について説明させていただきます。

イ 学校運営協議会について

静岡県立学校における学校運営協議会の設置校等に関する規則

- ・第2条
- ・第4条
- ・第5条
- ・第6条
- ・第7条
- ・第9条

静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する要綱

- ・第4条
- ・第8条 今年度は今回を含む4回を計画している。
- ・第11条 議事録を作成、皆様に見ていただいた後、学校ホームページに掲載する。

資料9 ページからは「コミュニティースクールとは」「学校運営協議会とは」を図式化したものを載せています。また、学校ウエイ協議会の主な機能について説明がされています。

資料10 ページ、11 ページについては、本校と地域との共通課題に関する協議や学校運

営に対する支援を協議する場と言っています。お時間のある時に目を通していただきたいと思います。

資料 12 ページでは、関係者が当事者意識をもってそれぞれの立場で取り組み内容を協議する、学校と地域との共通課題に対する協議や、学校運営に対する支援を協議する、となっています。皆様がお持ちの情報やそれぞれの立場からの御意見をたくさんいただければと思います。

資料 13 ページには、本校の学校運営協議会の組織イメージを載せています。下で支えている保護者代表や運営協議会の皆様がそれぞれの立場で、そして地域全体で、本校の活動を支えているというイメージです。

ここに、今年から、この図に本校の目指す子供像を載せました。学校教育目標の「夢中」と「笑顔」輝く姿ということを目指して取り組んでいきます。

今年から、静岡市の行政の方はメンバーから外れました。みなさんの御意見や御提案をたくさんいただけたらと思います。

学校運営協議会の設置等に関する規則の第 14 条に、会長と副会長を選定することが定められています。昨年度は、会長を野村委員、副会長を上川委員にお願いしていましたが、今年度も引き続きお願いしたいと考えています。いかがでしょうか。

それでは、ここから協議に入っていきます。進行を野村委員に代わっていただきます。よろしくお願ひします。

## ウ 協議

### 【野村委員】

それでは、協議に入っていきます。まずは、校長先生から学校運営、経営方針について説明をお願いします。

### 【校長】

それでは、資料の 14 ページを御覧ください。こちらは本校のグランドデザインです。一番下に保護者の皆様、地域の皆様、本校の子供たち、そして職員が手をつないだ様子が蓮の葉の上に描かれています。これは本校の校章を模したものになっています。そして、具現化の柱「三本の柱」に続いて、小学部、中学部、高等部の学部目標と具体像を令和 5 年度の形にリニューアルしたものを載せています。一番上には、将来、子供たちが「夢中」と「笑顔」の姿を実現して、「共生社会を生きる」ということを達成した様子を蓮の花が開いた様子で表現しています。昨年度までは、目指す子供像を「麻機蓮のつぼみが開くように」としていましたが、もう少し具体的な姿が見たいということで変えています。

15 ページを御覧ください。学校経営計画です。一つ一つ説明していくべきところですが、委員の皆様には、昨年度中によく読んでいただいて、御意見をいただき、それを基にして変えたところがありますので、どの部分を変えたかを中心に説明させていただきたいと思います。

教育目標は、「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと、今年度で 3 年目です。この目標の具現化の柱として、三本を変えずに行きたいと思っています。アのところで言っている学校の教職員としての専門性、イの安全で安心な学校を目指して、ウでは先ほどから挙が

っている地域や関係機関とのつながり、就学前就学後の関係機関とのつながりを変わらずにおさえたいと思います。どのあたりが変わっているかといいますと、知的障害教育校と加えたのは、知的障害教育校としての専門性と良さを、50周年を見越してアピールしていきたいためです。イのところでは50年目を迎えた校風と組織力を強調したいと思っています。イについては、世の中でいろいろな事件等が起こっていますが、教職員が人権感覚を高めて、子供たちが安全に過ごす中で保護者の皆様にも安心して子供たちを任せていただけるような環境整備、大変厳しい状況ではありますが、新しい学校を夢に描きながら、今の環境を整備していきたいと思います。連携につきましては、エにもありましたようにこの学校が麻機の地域にあるというのが本校の他にはない大きな特色ですので、それを更に充実させて50周年にもつなげていきたいと思っています。関係機関の方々と保護者の方々とをつなぐ個別の計画も大事にしていきたいと考えています。

2のところ、皆さんの御意見をいただいて変えたところを説明します。まずカリキュラムマネジメントの目標では、保護者目標が前は80%、教員が100%だったのですが、数値目標の意味をこの会で御指摘いただき、前回の数値目標を踏まえて立てたらどうかという御意見をいただきました。また、今日いらっしゃらない太田会長からは、保護者としてもその方がむしろ保護者に高い目標を求められているように感じるということや、実態に応じた目標数値でよいという御助言をいただいています。教員も100%を目指すのが当たり前ですが、もっと柔軟に考えたらどうかという御意見をいただきました。そこで昨年の保護者評価を踏まえてそれよりも少し高い数値目標として95%という目標を掲げさせていただきました。専門性のマネジメントのところでは、「授業の根拠について説明を受けたと答えた保護者95%」のところは前回から変えたところです。同じように次のページの安全・安心のところでは「挨拶と感謝の言葉がよく聞かれたという保護者90%以上」そして、連携の「1年後、3年後、卒業後の夢の実現に向けた具体的な取組を示すことができた教員100%」というところですが、「目標を共有して取り組むことができたと答えた保護者」については、全体では95%、小学部は100%、中学部は95%、高等部は90%という、学部によって異なる目標数値を入れるようにしました。運営協議会で皆さんに御助言いただくまでは、学部ごと異なる数値化をするということは思いもつかなかったため、何のための数値かを改めて考える機会となりました。ありがとうございました。

それを含めまして、専門性ではカリキュラムマネジメントに加えて、授業づくりに力を入れていきます。この中ではICTの活用にも力を入れているところですので、タブレットを活用した授業実践を入れてあります。また、何よりも、子供たちが「授業が分かった、楽しい」と感じられるようになったと答えることが増えるように授業づくりを進めていきたいと思ます。

16ページの方に進みます。先ほど職員室をいただいたときに、それぞれがタイムマネジメントができるようにいろいろな取組を紹介させていただきました。引き続き、勤務環境の改善に努めていきたいと思っています。

安全・安心のほうにまいります。先ほどの挨拶と感謝の言葉については、保護者のアンケートの回答に差があったり、一生懸命にやっているんだけど、届かないところがあったりという現状があります。引き続き、この点についても取り組んでいきたいと思ます。また、いじめ等の実態把握については、今年の一つ新しい方策を構内で立てて子供た

ちの困り感を少しでも把握できるように努めていきたいと思ひます。

安全・安心の二つ目ですが、未然防止への行動力と有事への対応力の向上について、この後の学校運営協議会で「防災」について焦点を当てていきたいと考えています。昨今、地震が頻発しています。今度、有事の時の対応として引き渡し訓練を行います。中央特別支援学校と静岡北特別支援学校の子供たちのお迎えに保護者が一斉にここに来ると地域の皆様に交通渋滞など様々な御迷惑をおかけする可能性もあり、考慮を重ねているところです。本当に引き渡しのためにお迎えに来ることがいいことなのかも含めて、また、学校にどれくらい「とどめおくことができるのか」「施設は大丈夫なのか」、そういった様々な側面から、まだまだ手を入れていかなければならないと思ひます。今年度の焦点の一つとしていきたいと考えています。

連携については、先ほど「麻活」の話をしていただきました。今後も引き続き皆様の御協力をよろしくお願ひします。以上です。

#### 【野村委員】

ありがとうございました。それでは、続きまして、各学部の部主事の先生からご提案をお願ひいたします。

#### 【小学部 部主事】

17 ページの上の部分から御覧ください。小学部の学部目標は、今年から「みんなと一緒に自分から取り組む児童」としてあります。学部目標に迫る具体像と指導方針を三つ掲げてあります。

ア自己評価できる環境を作るということを今年から頑張っていきたいと思ひ、入れてあります。イ「身の回りのことが自分でできる児童」これは、小学部で特に大事にしている身辺処理の力を身に付けるというところの目標です。自立に向けて、まずは小学部の段階で自分のことは自分でやろうという気持ちづくりやそのための技能を身に付けることをねらっています。スモールステップで少しずつ技能の向上を図っていきたいと思ひます。そして、ここで「自分でできた」ということを積み重ねていき。一つ一つできたことを褒められることを通して、自信に変えていけるようにしたいと考えています。ウ「人や物に興味を持ち、みんなと仲良く関わることのできる児童」です。ここでは、人との関わりや社会の約束やマナーを知って、それを守る力を付けることをねらっています。また、思いを表現するというを大切にしていけるのですが、さらに周りの人の気持ちを受け入れる経験を積んでいきたいと考えて、文言に加えてあります。伝える経験と受け入れる経験を少しずつ積んでいくことで、子供の力を伸ばしていきたいと考えています。小学部は以上です。

#### 【野村委員】

ありがとうございました。続きまして、中学部、お願ひします。

#### 【中学部 部主事】

中学部の学部目標は、「自ら考え、仲間と一緒に進んで活動する生徒」となっています。

小学部から培ってきたもの、「自分のことは自分でやろう」などの気持ちや、基礎基盤の力が育ってきた中で、中学部では周りにも気を配って見ていく、視野を広げていくというような段階にもなりますので、目標に「仲間」の文言を加えました。この学部目標に迫る具体方針です。ア「目的や目標をもって取り組む生徒」の部分の、特にbの部分ですが、人の役に立つ活動をしてということで褒められたり、達成感を感じたりすることは、成長を促すことができる場面でもあるので、増やしていきたいと思います。「仲間と」ということも出てきていますが、人、周りをとという視野を入れながら、人のためになる活動を通して指導できる場面を増やしていきたいと思います。イの、「自ら気づいて行動する生徒は自ら考え」というところにもつながってきますが、「分かる・できる」というところも大事にしていきたいので、そのような状況を作っていくというところを大切にしていきたいと思っています。また、生徒が自己選択、決定といった場面にも自分から進んでやっていきたいと思います。ウのところ、「仲間と協力して集団生活ができる生徒」ということでここにも「仲間」という言葉が出てきます。bのところでは、相手からの働き掛けや発信を受けとめたり、また、自ら表出して発信していったりすること、その相互の部分というところで、他者と自分の場面を大切にしていきたいと考えています。中学部は以上です。

#### 【野村委員】

ありがとうございます。では、高等部、お願いします。

#### 【高等部 部主事】

今年度から学部目標を少し変更しまして、「地域で学び、働くことに喜びを持つ生徒」という学部目標を掲げています。義務教育を終えて、地域社会で働く力をつけるため、共同学習の中で将来、地域社会で生き生きと働くために学びたいという思いを持って、高等部に進学してくれていると私たちは信じています。その中で学部目標に迫るために、具体像として、夢中になって取り組むためには最後までやり抜く生徒を育てたいね、その中で自分の目標を理解し…というところで、この活動は何のためにやっているのか、例えば作業学習ではこの手順は何のためにあるのかとか、気を付けなければならないポイントはなぜだろうということを理解して活動に粘り強く取り組む生徒を育てていきたいと考えています。また、笑顔輝く日々を送るために自分を大切にすること、周りの人も大切にすること、そして仲間を大切にすることを育てていきたいと考えています。高等部の段階では自己理解を深める学習を計画的に進めていきます。障害を受け入れるというか、自分をよく知って、「自分はこんなことが得意だよ。」「こんなことが苦手だけど、こうするとできるよ。」といった力を育てていきたいと考えています。また、自分の気持ちを個々の方法で周囲に伝え、周りの人と気持ちよく生活する力が必要だと考えています。また、地域で自分らしく生き生きと働くために、人の役に立つということを喜びに変えられる、感じられる生徒を育てたいと考えています。特に、今年度は地域に出掛けてたくさんの人と関わりながら学習を進めていきたいと思っています。まずは6月に静岡西高との交流で学校祭に参加させていただいたり、センターハウスでの販売や流通センターをお借りしての販売会を行ったり、たくさん計画していきたいと考えています。高等部、以上です。

### 【野村委員】

ありがとうございました。では質疑応答に入りたいと思います。御意見や御質問のある方はお願いします。

### 【堀越委員】

小、中、高等部と子供たちが力を獲得していく、そして卒業後、卒業するにあたり困ったことを相談することや、嫌だったことを伝えることや、手伝ってもらってもよいことを知るなどの力を実践の中で育てていただけたらありがたいなと思います。

### 【木原委員】

目標のこととは違うかもしれないが、中学部に行ったときに気が付いたことで、中学生になると体の発育の差が大きくなります。廊下に一人、床が冷たくて気持ちが悪かったのか、寝転がっている生徒がいました。ああいうことはあるのですが、近くで体の小さな男子生徒が心配しているような形をとりながら、我々がいたら「こっちは僕がいるから、皆さんあっちに行って」というような手の表現をしていました。それこそ、私としては、「仲間と協力して」を実践しているような感じに受けとめられました。本来ならば、人のことは気にしないことが多い中で、小学部のころから一緒だったのか、心配して見守ったり、声を掛けたりして、我々対して「何とかするよ」の合図がありました。ここにある、「仲間と協力して」をうまく具現化していたのかなという印象を受けました。これは私の受けとめ方かもしれないので、実際は違うのかもしれないけれど、もっと伸びて行ってほしいと感じました。

### 【中学部 部主事】

そのように受けとめていただけてありがとうございます。友達に目を向けることはとても大事なことだと思います。そのように指導していきたいと改めて思いました。ありがとうございます。

### 【青木委員】

先ほど、革製品を作っているところを見ましたが、どういうところで売るのですか。

### 【高等部 部主事】

まずは、製品の良さであったり、改善点であったり、お客様からの声を集約するために校内販売という形をとって、職員を対象に販売をします。市場調査をしてさらに製品を良くしていきます。そして、更に作業学習に生かしていきます。地域の流通センターをお借りした販売会で職員の方への販売であったり、今年度やっていきたいのは麻機緑地に来ている方への販売であったりとか最終的には静北祭での保護者や校内の教員に販売を考えています。

### 【青木委員】

コーヒーの持つところのカバーやコインケースなどおしゃれなものがあって普通に売

れるのではないかと思います。もっと多くの人に手に取ってもらえたらいいですね。

**【高等部 部主事】**

販路が増えるといいと思っています。今年度、まだ取組段階なのですが、これからお店を開かれるという方が本校の製品をお店に置かせてほしいということで、先日見学に来てくださいました。いくつか商品を持って行っていただきました。そういったところで広がっていったらいいなと思っています。ありがとうございます。

**【校長】**

身近な保護者や教員だけではなくて、広く見ていただけることは大事なので、御意見を参考にさせていただきます。いい場所があったら教えてください。

**【青木委員】**

スターバックスさんでやっていたので、見ました。

**【校長】**

南の丘分校も参加させていただいたと聞いています。

**【上川委員】**

高等部で、一般就労で就く方がいますよね。

**【高等部 部主事】**

障害者雇用という形での就労で、います。

**【上川委員】**

どれくらいいらっしゃるのですか。

**【高等部 部主事】**

本校の紹介の資料「数字で見る静岡北特別支援学校」に載っていますが、令和4年度の卒業生は60人いましたが、その中で一般就労という枠で見ますと13人います。割合としては少なく、福祉就労が一般的には多いです。

**【上川委員】**

それでも60人くらいで13人ということは、優秀だなと思います。ただ、何を聞きたいかという、社会に出て、一般就労される方が挫折することもある。職場によって職場環境というのは全然違うので、そういうことになった時に手を差し伸べるのは、一般の社員でもある。心のケアが必要になったらここに行きなさいとか、静岡市の精神障害課の関連で保健所にそういう課がありますから、私たちもそこで研修を受けて、社長さんなどにこういうところがあるから、社員でそういう人がいたら声を掛けて相談するんですよという話があった。杉本先生からも、卒業後困ったことがあって、こういう仕組みのところへ相



談するように言ってあげていくというのは、一つの学校の使命かなと思います。先生たちも、僕らも「できる、できる。」「やりなさい。」と言う。でも、誰しも立ち止まることが必要だと言ってあげられるように指導していただけるといいかなと思います。

#### 【高等部 部主事】

ありがとうございます。卒業生に関しては、3月に移行支援会議というのを設けて、就労先の担当の方や人事部の方や、地域の卒後支援をしてくださる方にも出席していただいて、顔合わせの機会を作っています。生徒にはよく、学習の中で、「まず、困ったら学校に電話しておいで。」と言っています。そこから、「こういうところに電話するといいよ。」それこそ、障害者協会にお電話するように勧めたりすることもあります。そういった紹介をするにはしていますが、より充実した指導ができるように努めていきたいと思いません。御意見いただき、ありがとうございました。

#### 【野村委員】

私から二つほどよろしいですか。目標設定のところ、令和4年度末に提案されたものから、子供の姿を踏まえてよりアップデートされているという印象を持ちました。個別の支援計画との連動が、おそらくゆっくりとかみ合っていく感じなのではないかと思えます。基本的な目標がずっとありながら、そこをどうアップデートしていくのかなというのと、アップデートしてかみ合っていくスピードが速くなっていくのを考えていただけたら嬉しいなと思いました。

もう一つ、皆さん、先ほど革製品などは素敵な製品があるというのが話題になりましたが、南の丘分校に喫茶サービスがあるので、そこのコラボでうまくやっていくのはどうかとか、支援学校同士でコラボしながら、販路を獲得していく方法なども考えていくと、うまく共存できることがあるのではないのでしょうか。

#### 【高等部 部主事】

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

#### 【校長】

ちょうど本校が50周年、分校が20周年という行事があるので、それぞれがそれぞれの地域とだけではなく、分校と本校が連携していけるといいですね。教員は分校と本校で異動することも、ありますがそういうのも面白いかもしれませんね。

#### 【上川委員】

売ったお金は県の出納になるのでしょうか。

#### 【高等部 部主事】

販売した喜びや関われる喜びはありますので、お金では得られない経験をさせていただいています。

### 【野村委員】

それでは、学校運営方針について御承認していただける方は挙手をお願いします。（挙手。）御承認ということでよろしいですね。ありがとうございます。

### 【副校長】

ありがとうございます。ここから、また、私の方で進行させていただきます。今いただいた御意見や御提案を検討しながら進めていきたいと思っております。ありがとうございます。今日は校内を見ていただく時間をたっぷり作っていただいたので、今後はテーマを持った協議というところで、具体的な御提案をお願いしたいです。

次は7月19日（木）午前10時から正午になっています。生徒指導についてのお話を皆さんとできればと思っています。3回目の11月は「防災」についてです。地域ということで中央特別支援学校と合同でやります。去年もやりましたが、今年も続けてやっていきたいと思っております。4回目は、評価をいただく回になっています。よろしくお願ひします。

それでは、第1回学校運営協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

## (4) 校内コンプライアンス委員会

### 【副校長】

引き続き、校内コンプライアンス委員会を開催します。

机前にお配りした3枚の資料を御覧ください。1枚目が「不祥事根絶の取組計画」となっています。1年間のタイムリーなテーマを計画しています。昨日、本校運営委員会に提出し、今度職員会議で全職員に出していきます。みなさんに御意見をいただき、それを踏まえて職員会議に出せたらと考えています。昨年、御意見をいただいたことを踏まえて載せてあります。チェックシートを活用するという取組を加えていきます。

チェックシートが、例えば5月は体罰というテーマで、この裏面にあるように「あなたの人権感覚」というところで体罰根絶のためのチェックシートを使って自己評価していきます。人権感覚というところでは、その裏にあるようにグーグルフォームで実施しようと考えていますが、各自、表を生かしていきます。もう一つ、本校ならではの取組として「静北教職員の心得」を出しています。22項目ありますが、朝の打合せで唱和したりしています。それをうまく活用しながら4月から3月まで行っていきます。ここまで簡単に説明させていただきました。御意見や御感想をいただけたらと思います。

### 【堀越委員】

障害者協会です。障害者虐待センターがあります。そういったこともあり、これは大変良いチェックシートだと思います。そういった中で細かいチェック機能があると思います。このチェックの前提となるような国際障害者権利条約で、内容の確認をしてはどうかと思います。

### 【副校長】

ありがとうございます。裏付けとして条約を確認してみます。

**【上川委員】**

生徒同士で暴力というか、けんかというのがあるのですか。どちらかというとな小学部や中学部よりも、高等部の方が多いのかなと思うのですが。生徒同士というのはどうですか。

**【高等部 部主事】**

生徒同士の大きな暴力行為の言うのは、私が本校に来て4年目になりますが、ないかなと思います。

**【校長】**

力による暴力というものだけではないと思いますが。

**【上川委員】**

体罰ということで、殴った、殴られたということはないのかなと思ひまして。

**【高等部 部主事】**

そういうのはないのですが、言葉の暴力というか、一方は嫌なことをされたから、相手に対して発した暴言なのですが、受けた方はずっと引きずってしまって、関係性が悪くなり、不登校につながったという案件はあります。

**【上川委員】**

親御さんから学校に対して、「うちの子が学校で暴力を受けた」というような訴えは今までにないのですか。

**【高等部 部主事】**

言葉の暴力はあります。誰かに叩かれた、殴られたという大きな案件はないです。

**【上川委員】**

言葉の暴力というのはどういう感じですか。

**【高等部 部主事】**

「死ね。」「消えろ。」などと言われた、ということはありません。

**【上川委員】**

学校はどういう指導をするのですか。親御さんからの苦情があった時には。

**【校長】**

まずは聞き取りを行います。言葉だけでは確認できないので、情報を整理します。状況を整理して、また、それぞれの障害の状態に合わせて、事実をしっかりと確認した上で生徒に対する指導を行うようにしています。

昨年も、保護者からの苦情がありました。県教委に窓口がありますので、中には県教委

に対して本校についての訴えをする場合もあります。なるべくその前に学校の方でお話を伺えるように保護者と担任と連携を密にしたり、あとは学校の窓口を設けたりということに対応しています。学校として何重にも対応していくようにしています。また、事実をもとに考えていくということが一番大事にしています。やはり、知的障害のある方たちなので、事実の確認というのが子供同士だとしきれないので、教員の目を掛けていくような見守りの意識を心掛けるようにしています。

#### 【上川委員】

障害がある子だからこそ、暴力が止まらないのではないですか。普通だと「だめだよ。」と言うと、言った段階で止まるかもしれないですけど、障害があると暴力行為がずっと続いてしまうようなことがあるのではないですか。どうやって先生たちは指導していくのかなと思います。

#### 【校長】

外から見ると、一見暴力に見えるような行動も、その子からすると「なんで分かってきれないんだよ。」という突発的で衝動的な行動にあらわれる場合があります。暴力ではなくてその子の情動の抑えきれなさであったりもするので、原因が分かればそのストレスを軽減することもでき、一見暴力に見える行動がおさまってくることもあります。その見極めが大事になってくると思います。

#### 【上川委員】

ありがとうございます。

#### 【青木委員】

人権感覚のグーグルフォームのアンケートのことなのですが、例えば一番下の「自分の思いだけで、相手の気持ちが至らずに、配慮に欠けた言動をしてしまう」とか、やっている本人は配慮しているつもりでも、受け手からすれば、そもそも基準が違うというか、そういうところがあると思います。受け手の感覚の違いですね。それはどうするのですか。アンケートの回答を見て、この人はできていると見ていくのか。どちらかといえばアンケートというよりも具体的なケーススタディーなどで、「こういう場合にはどういう点に気を付ければいいのか」とか具体的な事例をもとにディスカッションするといった方がいいのではないのでしょうか。こういうアンケートをとっても自分ではできているという評価をする。いろいろな方向性からやっていった方がいいのではないのでしょうか。

体罰セルフチェックシートについては、だめなことは先生方も分かっていると思うのですが、どうしようもない。成功事例の共有はしているのでしょうか。

#### 【副校長】

それについては、次回「生徒指導」が話題になっているので、この御意見を踏まえて話し合ってみてもいいですね。私たちが実際にやっている取組などを紹介して、それに対する御意見をいただいてもいいかと思います。今聞いただけでも、なるほど、そうだなと

思うことばかりです。自分自身で自分のことを分かっていないなと思うことも多いです。

#### 【校長】

一応チェックを含めて、研修会もやっていきます。ケーススタディーは実際にやっているのですが、今、おっしゃられたほどの具体的なケーススタディーが必要かどうか、検討が必要だと思います。7月に行う人権研修会では、ケースを挙げながらやっていく予定ですが、どちらかというところこのチェックシートは自分自身を振り返ったり、こういうことがあったなということを確認したりするための定期的なチェックという位置付けでやっています。アンガーマネジメントにつながるかもしれないですね。御指摘を参考にさせていただいて、次回具体的に考えていきたいと思います。ありがとうございます。

#### 【野村委員】

このチェックシートを見ながら、たまたま昨日、大学の方で研究不正の話が出たのを思い出しました。今研修にどんなエビデンスがあるのかという話のときに、こういう時は不正、こういう時はペナルティー、これだとアウトという位置付けという意味で機能するなと思いつつ聞きました。どこかに置いておくということと、「人間って弱い」という設定の下に、抑えきれない部分があるのかもしれない、気が付かないで終わる部分があるのかもしれないというところが、安全に扱える仕組みを、研修の中であつたり、例えば、「部主事が聞くよ。」というふうにしたりと、「弱くていいんだ。」のような弱さを支え合う仕組みがあるといいなと思います。しないようにするというよりは、「人間だもの。」というところでやっていけるといいなと思いつつ聞きました。こういう研修をすると隠すことをより強化してしまうことにつながると思います。そうすると別の心理を育ててしまうと思うのです。なので、しちゃうこともあるのかもしれないということで、生徒指導のところで話ができるといいかなと思います。

#### 【副校長】

目的がいくつもあるなと思います。それに対して、何のためのツールなのかということも考えながら私たちも使って、それを補う研修ができたらいいなと聞いていて思いました。ありがとうございます。

#### 【木原委員】

教えてもらいたいことがあります。教職員心得の中の16番、「実は交通事故発生率ナンバーワン！」とありますが、ここの学校が事故発生率ナンバーワンなのですか。県内の特別支援学校の中で、この学校が一番事故が多いのですか、そういう意味ですか。

#### 【校長】

これは直さなければなりませんね。令和3年度にそうだったと思います。

#### 【教頭】

そういう時代もありました。職員の交通事故はだいぶ減りまして、ここ数年で多かった

のが令和3年度でした。それを皆さんで共有して教訓としていきましょう、ということで挙げさせていただきました。

**【木原委員】**

何がナンバーワンなのか分からなかったです。18番の「ながら運転はやめましょうね。」というのを大きく言うのはいいですが、「前だけ見て運転」、これはだめです。周囲の状況をよく見てということであって、こういうのを教職員心得に載せては困ります。

**【校長】**

周囲の状況に注意してということですね。早速修正します。ありがとうございます。

**【副校長】**

ながら運転というのが大きく言われたことがありました。文言をよく見て出したいと思います。ありがとうございます。

もっともっと、お話を聞きたいところですが、お時間も無くなってきました。次回は7月19日です。また、皆さんとお目にかかってお話をしたいと思います。お願いします。これでコンプライアンス委員会を終わります。ありがとうございました。

(5) 閉会

**【校長】**

堀越さんにお配りいただいた資料、ありがとうございます。これについて、何かご説明はありますか。

**【堀越委員】**

年度が変わりましたので、新しいものをお持ちしました。委託の相談事業所の一覧を載せてあります。通常の福祉サービスの相談については計画相談でお受けできるのですが、少し複雑なケースにつきましては、委託相談と計画相談とを絡ませて相談していただければ、委託は計画相談をサポートする立場なので、そんな使い方があると知っていただければと思います。

それから、研修についてのチラシを2枚付けました。触法行為については、支援を厚くしていこうとか、あるいは性の問題がある人たちの支援を継続しようとか、静岡市もインストラクターを増やしてやっていこうという動きがあります。また御協力いただければと思います。

**【副校長】**

皆さん、御多用の中、暑い中、今日はありがとうございました。これで閉じさせていただきます。